

3. 系への所属と学修課程について

1. 系への所属について

系への所属と受入可能予定人数

皆さんは1年目に類に所属していますが、2年目からは系に所属することになります。系に所属するためには所定の授業科目を履修し、所定の単位数を修得していなければなりません。必要単位は次頁(2)系所属に必要な単位 表8を参照してください。

系には表7のとおり、受入可能予定人数が定められていますが、実際に所属できる人数（受入数）は、当該年度の所属有資格者（1年以上在学し、所定の授業科目及び単位を修得した者）の人数及び各学院の収容定員に対する在学者数によって増減します。

系への所属は、学生の志望順位と学業成績によって決定されますので、必ずしも皆さんの第1希望の系に所属できるとは限りません。

系への所属にともなって、**所属する学院**も自動的に決定します。

所属する系は皆さんの志望と100番台の授業科目等による成績によって決定されますから、この点に十分注意して、1年目当初から学修を怠らないよう心がけてください。

表7 系及び受入可能予定人数

類	学院	系	受入可能 予定人数
第1類	理学院	数学系	29
		物理学系	61
		化学系	44
		地球惑星科学系	32
	情報理工学院	数理・計算科学系	37
第2類	物質理工学院	材料系	92
第3類	物質理工学院	応用化学系	109
	工学院	経営工学系	12
第4類	工学院	機械系	144
		システム制御系	28
		経営工学系	50
	環境・社会理工学院	融合理工学系	17
第5類	工学院	システム制御系	20
		電気電子系	90
		情報通信系	49
	情報理工学院	情報工学系	64
第6類	環境・社会理工学院	建築学系	62
		土木・環境工学系	40
		融合理工学系	28
第7類	生命理工学院	生命理工学系	164

所属系の決定方法

(1) 志望系の申告

系所属については、10～11月頃に系所属オリエンテーション及び類又は系によるオリエンテーションが行われ、内容について説明します。掲示板等で周知しますので留意してください。

志望する系の申告は、自身の学修成績も考え合わせながら、原則として類内の全ての系について志望順位（第1志望、

第2志望，…）を決めて申告することになります。（類内系所属）

（２）系所属の資格

類に所属している時に次の授業科目の単位（表8）を修得していないと，系に所属することができません。

表 8 系所属に必要な単位

科目区分等		系所属に必要な単位 （下記の両者を満たすこと。）	
文系教養科目	100番台の必修科目「東工大立志プロジェクト」2単位，100番台の選択必修科目（人文学系，社会科学系，融合系から各1単位）の計4科目，合計5単位	左記の授業科目，計 20 科目，合計 23 単位から計 17 単位以上を修得すること。	左記の授業科目から計 31 単位以上を修得すること。
英語科目	100番台の必修科目，計4科目，合計4単位		
理工系教養科目	100番台の必修科目，計12科目，合計14単位		
上記以外の 100 番台の授業科目 （ただし，「グローバル理工人研修入門（1A～1D，2A～2D，3A～3D）」，教職に関する科目，日本語・日本文化科目を除く。）		—	

（３）選考と決定

系への所属は，系の受入数と有資格者の成績及び志望（不合格点も得点計算の対象となります。）によって決定されますが，その選考方法はおおよそ次のとおりです。

系の受入数は，類内の有資格者の1.1倍の数を，表7に示す各系の受入可能予定人数で比例配分（端数切捨）し，各学院及び各系の教育上の事情を考慮して定める「系最大受入人数」を算出し，系最大受入人数の100/110（端数切上）を「類内調整人数」，10/110（端数切捨）を「類外受入上限人数」と呼び，総得点（表9に規定する授業科目等及び算出式による総得点）が高い学生の志望順位順に所属する系を決定します。

具体的には，各系の「類内調整人数」の範囲において類内系所属希望者を対象として所属を決定し，各系の「類外受入上限人数」の範囲において「類内調整人数」で所属が決定しなかった類内系所属希望者と当該系への類外系所属希望者を合わせて所属を決定します。

（注意）建築学系科についてはAO入試の総合問題Aを受験した者から最大7名，土木・環境工学系については総合問題Bを受験した者から最大5名，融合理工学系については総合問題Cを受験した者から最大5名を優先して決定します。

また，選考にあたっては，系最大受入人数を超えないこと及び学院最大受入人数（各学院の収容定員に基づき，当該年度における在学者数を踏まえて算出）を超えないものとします。

系所属に必要な単位を類所属中に修得できなかった者は、翌年度に不足単位を修得し、改めて志望しなければなりません。

所属類以外の系所属

所属類内の系を希望することが原則ですが、もし所属類以外（類外）の系に所属することを希望する場合は、次により取り扱われます。（類外系所属）

- (1) 志望することができる類外の系は1系のみ。
- (2) 所属している類から類外の系に所属することができる人数は、当該類の有資格者の10/100まで（端数切捨）。
希望者がそれを超過する場合は、総得点が高い者から順に選考。
- (3) 志望する系において所属類以外の者を受け入れることができる人数は、当該系の類外受入上限人数まで。

（ただし、経営工学系、システム制御系及び融合理工学系については、当該系に対応する類それぞれにおける当該系の類外受入上限人数の合計まで）

なお、所属類に対応する系以外の系への所属を希望する場合は、志望申告前に所属類主任のガイダンスを受け、承認を得ることが必要になります。

一旦所属した系の変更について（転系）

系に所属した後、他の系への所属を希望する場合は、学院長の許可を得た上で、本学に入学後、系所属するまでの間に所属した類にあるものとして系所属をやり直すことにより転系できることがあり、また、転系を志望する系における受入れ及び当該系を置く学院の収容定員に特に余裕が有り、かつ、志望する系を置く学院及び転系希望者が所属する学院の教授会において学修状況等を審査の上、転系が許可されることがあります。

変更希望者は所定の期日までに関係系主任の許可を得たうえで、所属学院の学院長（受付は教務課又は学務課）に願出する必要があります。転系を希望する場合は、アカデミック・アドバイザーや所属系主任等とよく相談してください。なお、学期途中での変更はできません。

表9 I 共通得点に用いる科目等

A) 必修単位群

授業科目			単位数
文系教養科目	選択必修科目（人文学）	哲学A	1
	選択必修科目（人文学）	芸術A	1
	選択必修科目（人文学）	文化人類学A	1
	選択必修科目（人文学）	文学A	1
	選択必修科目（人文学）	歴史学A	1
	選択必修科目（人文学）	宗教学A	1
	選択必修科目（人文学）	コミュニケーション論A	1
	選択必修科目（人文学）	教養特論：多文化共生論	1
	選択必修科目（人文学）	教養特論：言語と文化	1
	選択必修科目（人文学）	外国語への招待1	1
	選択必修科目（人文学）	外国語への招待2	1
	選択必修科目（社会科学）	法学（憲法）A	1
	選択必修科目（社会科学）	法学（民事法）A	1
	選択必修科目（社会科学）	政治学A	1
	選択必修科目（社会科学）	国際関係論A	1
	選択必修科目（社会科学）	心理学A	1

授業科目			単位数
文系 教養 科目	選択必修科目(社会科学)	教育学A	1
	選択必修科目(社会科学)	社会学A	1
	選択必修科目(社会科学)	現代社会論A	1
	選択必修科目(社会科学)	経済学A	1
	選択必修科目(社会科学)	現代ジャーナリズムA	1
	選択必修科目(融合)	統計学A	1
	選択必修科目(融合)	科学史A	1
	選択必修科目(融合)	技術史A	1
	選択必修科目(融合)	科学技術社会論・科学技術政策A	1
	選択必修科目(融合)	科学技術倫理A	1
	選択必修科目(融合)	科学哲学A	1
	選択必修科目(融合)	社会モデリングA	1
	選択必修科目(融合)	意思決定論A	1
	選択必修科目(融合)	言語学A	1
英語 科目	必修科目	英語第一	1
	必修科目	英語第二	1
	必修科目	英語第三	1
	必修科目	英語第四	1
理工系 教養 科目	必修科目	微分積分学第一・演習	2
	必修科目	線形代数学第一・演習	2
	必修科目	力学基礎1	1
	必修科目	力学基礎2	1
	必修科目	電磁気学基礎1	1
	必修科目	電磁気学基礎2	1
	必修科目	無機化学基礎	1
	必修科目	有機化学基礎	1
	必修科目	量子化学基礎	1
	必修科目	化学熱力学基礎	1
	必修科目	生命科学基礎第一1	1
	必修科目	生命科学基礎第一2	1

B) 選択単位群

授業科目			単位数
教養 文系 科目	人文学系ゼミ1		2
	社会科学系ゼミ1		2
	融合系ゼミ1		2
英語 科目	英語スピーキング演習第一		1
	英語スピーキング演習第二		1
	英語スピーキング演習第三		1
	英語スピーキング演習第四		1
	英語プレゼンテーション演習第一		1
	英語プレゼンテーション演習第二		1
	英語プレゼンテーション演習第三		1
	英語プレゼンテーション演習第四		1
	TOEFL 対策セミナー (リスニング&スピーキング) 第一		1
	TOEFL 対策セミナー (リスニング&スピーキング) 第二		1
	TOEFL 対策セミナー (リスニング&スピーキング) 第三		1
	TOEFL 対策セミナー (リスニング&スピーキング) 第四		1
	TOEFL 対策セミナー (リーディング&ライティング) 第一		1

授業科目		単位数
英語科目	TOEFL 対策セミナー（リーディング&ライティング）第二	1
	TOEFL 対策セミナー（リーディング&ライティング）第三	1
	TOEFL 対策セミナー（リーディング&ライティング）第四	1
	TOEIC 対策セミナー第一	1
	TOEIC 対策セミナー第二	1
	TOEIC 対策セミナー第三	1
	TOEIC 対策セミナー第四	1
	英語スピーキング演習 GI	2
	英語スピーキング演習 GII	2
教養 広域 科目	健康科学概論	1
	ウェルネス実習	1
	健康科学演習	1
	グローバル理工人入門	2
理工系 教養 科目	微分積分学第二	2
	線形代数学第二	2
	微分積分学演習第二	1
	線形代数学演習第二	1
	物理学演習第一	1
	物理学演習第二	1
	物理学実験第一	1
	物理学実験第二	1
	化学実験第一	2
	化学実験第二	2
	生命科学基礎第二 1	1
	生命科学基礎第二 2	1
	生命科学基礎実験	1
	宇宙地球科学 A	2
	宇宙地球科学 B	2
	宇宙地球科学基礎ラボ（地球物理）	1
	宇宙地球科学基礎ラボ（地球物質）	1
	宇宙地球科学基礎ラボ（天文学宇宙）	1
	図学・図形科学 1	1
	図学・図形科学 2	1
	図学・図形デザイン第一	2
	図学・図形デザイン第二	2
	図学製図	1
	情報リテラシ第一	1
	情報リテラシ第二	1
	コンピュータサイエンス第一	1
	コンピュータサイエンス第二	1
	環境安全論	1
	ものづくり	2
専門 科目	科学・技術の創造プロセス【1 類】	1
	科学・技術の創造プロセス【2 類】	1
	科学・技術の創造プロセス【3 類】	1
	科学・技術の創造プロセス【4 類】	1
	科学・技術の創造プロセス【5 類】	1
	科学・技術の創造プロセス【6 類】	1
	科学・技術の創造プロセス【7 類】	1
	1 類リテラシ	1

授業科目		単位数
専門科目	1 類専門基礎 1	1
	1 類専門基礎 2	1
	1 類専門基礎 3	1
	材料科学セミナー	1
	材料科学リテラシ	1
	材料科学基礎A	1
	材料科学基礎B	1
	応用化学リテラシ	1
	応用化学基礎	1
	化学プロセス基礎	1
	高分子科学基礎	1
	4 類リテラシ 1	1
	4 類リテラシ 2	1
	4 類リテラシ 3	1
	4 類リテラシ 4	1
	5 類リテラシ	1
	エレクトロニクス概論	1
	情報基礎学第一	1
	情報基礎学第二	1
	6 類リテラシ	1
	6 類専門基礎 1	1
	6 類専門基礎 2	1
	6 類専門基礎 3	1
	最先端生命研究概論	1
	バイオものづくり 1	1
	バイオものづくり 2	1
	国際バイオ創造設計	1

C) その他 (TOEFL 等)

TOEFL (iBT, ITP) テストのスコア及び TOEIC (公開, IP) テストのスコアを有している場合は、以下の換算式をもって成績 (点数) とみなし、実用英語技能認定試験 (以下「英検」という。) 1 級を有している場合は、100 点の成績とみなす。

- TOEFL iBT テスト : $\text{スコア} = \text{成績}$
※100 を超えるスコアの場合は 100 とする。
- TOEFL ITP テスト : $(\text{スコア} - 500) / 2.5 + 60 = \text{成績}$ (小数点以下切捨)
※換算の結果, 100 を超えた場合は 100 とする。
- TOEIC (公開, IP) テスト : $(\text{スコア} - 600) / 6.875 + 60 = \text{成績}$ (小数点以下切捨)
※換算の結果, 100 を超えた場合は 100 とする。

- (1) TOEFL iBT テスト, TOEFL ITP テスト, TOEIC 公開テスト, TOEIC IP テスト又は英検 1 級 (以下「TOEFL 等」という。) のうちいずれか一つを用いることができるものとし、総得点の算出においては、1 単位として取扱う。
- (2) 上記の取扱いを希望する者は、TOEFL (iBT, ITP) テストについてはスコアレポート, TOEIC 公開テストについては公式認定証, TOEIC IP テストについてはスコアレポート, 英検 1 級については合格通知書を、所定の様式と共に当該年の 1 月末日までに教務課へ提出しなければならない。なお、TOEFL (iBT, ITP)

のスコアについては、有効期限内のものに限る。

II 算出式

I (A) 必修単位群及び (B) 選択単位群の授業科目については、「成績×単位数」として得点を算出する。総得点の算出においては、「(A) 必修単位群の授業科目の成績上位 17 単位」(以下「必修上位 17 単位」という。)の得点合計値と、「必修上位 17 単位以外の必修単位群の授業科目の成績、(B) 選択単位群の授業科目の成績及び (C) その他 (TOEFL 等) の成績の上位 14 単位」(以下、「選択等上位 14 単位」という。)の得点合計値を足した値を総得点とする。(最大 3,100 点)

総得点＝必修上位 17 単位の得点合計値 + 選択等上位 14 単位の得点合計値

(注 1)：総得点の対象とする成績は、0 点～100 点とする。

(注 2)：必修上位 17 単位のうち、文系教養科目は成績の高得点順に最大 3 単位まで総得点に用いることができるものとする。

(注 3)：必修上位 17 単位の成績上位から数えて 17 単位目が 2 単位の授業科目だった場合は、1 単位として扱うとともに、当該授業科目は、必修上位 17 単位以外の必修単位の授業科目の 1 単位の成績としても扱う。また、選択等上位 14 単位の成績上位から数えて 14 単位目が 2 単位の授業科目だった場合は、1 単位として扱う。

(注 4)：I の (C) による TOEFL 等の成績を用いる場合は、(A) 必修単位群の英語第一、英語第二、英語第三及び英語第四と合わせ、そのうち成績上位 4 単位までを用いることができるものとする。(最大 400 点)

2. 学修課程について

学修課程

系に所属した学生は、アカデミック・アドバイザー等の指導も受けながら、自ら学修計画を立て、各授業科目を履修することになります。この場合、各系には**標準学修課程**というのが設けられているのでそれに従うのが实际的、かつ有効です。しかし目的によっては標準学修課程以外の課程を設ける場合があります。

標準学修課程による場合

標準学修課程は、研究者や技術者等それぞれの分野で社会に出てから活躍するために学修すべき標準のもので、時間割はその学修に支障のないように編成されています。各系の標準学修課程は表10のとおりです。

各標準学修課程の詳細については後に記載していますが、これらの学修課程に示された条件には若干の自由度があり、他の学修課程にあげられた授業科目の履修もある程度可能です。その場合は系主任、アカデミック・アドバイザー等と相談の上、学修計画を立ててください。

標準学修課程によらない場合

各系が定める標準学修課程によらない課程による学修を希望する場合には、自ら標準学修課程以外の学修計画を立てて、適当な科目を選択、履修することもできます。

この場合は、系所属と同時に、標準学修課程の科目と対応するような計画書をつくり、4月の履修期間中のできるだけ早い時期に所属系主任の承認を受け、これを学院長に提出しなければなりません。

なお、提出書類は、教務課又は学務課で受け付けます。

この計画は、系所属から卒業までの全期間にわたるもので、慎重を要しますが、いずれにしても2年目終了までは、ほぼ、その系の推奨する標準学修課程に添って履修することになるでしょう。なお、このような計画に際しては、時間割についても検討し、学修に支障のないようにすることが必要となります。

表 10 各系の標準学修課程

学院	系	標準学修課程
理学院	数学系	数学系学修課程
	物理学系	物理学系学修課程
	化学系	化学系学修課程
	地球惑星科学系	地球惑星科学系学修課程
工学院	機械系	機械系学修課程
	システム制御系	システム制御系学修課程
	電気電子系	電気電子系学修課程
	情報通信系	情報通信系学修課程
	経営工学系	経営工学系学修課程
物質理工学院	材料系	材料系学修課程
	応用化学系	応用化学系学修課程
情報理工学院	数理・計算科学系	数理・計算科学系学修課程
	情報工学系	情報工学系学修課程
生命理工学院	生命理工学系	生命理工学系学修課程
環境・社会理工学院	建築学系	建築学系学修課程
	土木・環境工学系	土木・環境工学系学修課程
	融合理工学系	融合理工学系学修課程